

令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 白沢 小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	37人	算数	37人	理科	37人
第5学年	国語	37人	算数	37人	理科	37人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

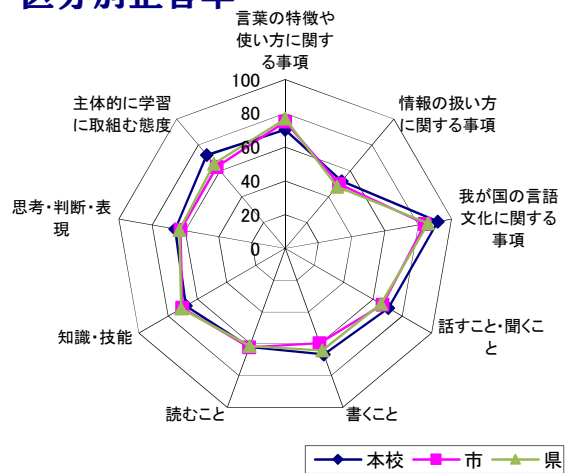
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立白沢小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	70.3	75.1	76.7
	情報の扱い方にに関する事項	51.9	49.6	47.8
	我が国の言語文化にに関する事項	91.7	84.0	85.9
	話すこと・聞くこと	70.6	66.5	65.5
	書くこと	66.7	59.6	64.2
	読むこと	62.0	62.2	61.5
観点	知識・技能	67.9	70.2	71.1
	思考・判断・表現	66.1	62.9	63.6
	主体的に学習に取り組む態度	72.2	63.0	65.5



★指導の工夫と改善

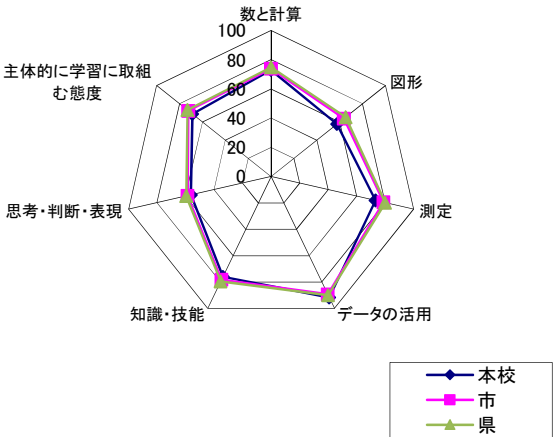
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	領域の平均正答率は70.3%で、市平均より4.8ポイント低い。 ○主語と述語に関する設問は、市平均より9ポイント高い。 ●第三学年の配当漢字の読み書きについては、6問中5問で市の平均を下回っている。特に書きの問題は3問中3問とも市の平均を8ポイント以上下回っている。	・漢字は、自主的に繰り返し復習することで定着が図れるように、家庭学習や朝の学習を充実させる。 ・国語辞典や漢字辞典の活用を通して、漢字や語句、熟語などの理解を深めていく。
情報の扱い方にに関する事項	領域の平均正答率は51.9%で、市平均より2.3ポイント高い。 ○情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見付けて要約する設問は、市平均より9.8ポイント上回っている。	・情報活用能力が高まるように、平行読書を行いながら読む授業を計画的に増やす。 ・国語辞典を使いながら、語彙力を豊かにしていく。
我が国の言語文化にに関する事項	領域の平均正答率は91.7%で、市平均より7.7ポイント高い。 ○漢字のへんやつくりに関する設問は、市の平均より7.7ポイント上回っている。	・より高くなるように、漢字辞典を使うことを推奨しながら、漢字のへんやつくりに関心をもって学習できるようにする。
話すこと・聞くこと	領域の平均正答率は70.6%で、市平均より4.1ポイント高い。 ○相手に伝わるように、自分の考えを、理由を挙げながら話す設問では、市平均を19.1ポイント上回っている。	・引き続き、授業の中に子供たち同士の学び合いの場を取り入れていくことで、話す・聞くの力の向上を目指していく。
書くこと	領域の平均正答率は66.7%で、市平均より7.1ポイント高い。 ○指定された長さで文章を書く設問では、市平均を12.8ポイント上回っている。	・レポートや新聞にまとめる活動を通して、決められた長さや構成で文章を書く指導を充実させていく。 ・国語だけでなく、他教科とも関連させ、要点や自分の考えをまとめる機会を増やし、書く力を向上させていく。
読むこと	領域の平均正答率は62%で、市平均とほぼ同じ。 ○場面の様子について、叙述を基に捉える設問では、市平均より6.9ポイント上回っている。 ●叙述を基に段落の内容を捉える設問では、市平均より10.2ポイント下回っている。	・読書の機会を増やし、想像力を働かせながら読み進める楽しさを実感させるようにする。 ・物語文では、登場人物の性格や心情を捉えながら読み取る学習を充実させる。 ・説明文では、要点や中心となる言葉を捉えて読み取る活動を充実させる。

宇都宮市立白沢小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	72.9	73.8	74.8
	図形	57.8	63.7	65.3
	測定	73.3	78.9	80.1
	データの活用	91.7	89.3	90.0
観点	知識・技能	76.1	78.3	79.5
	思考・判断・表現	56.3	58.6	59.5
	主体的に学習に取り組む態度	68.8	72.3	73.1



★指導の工夫と改善

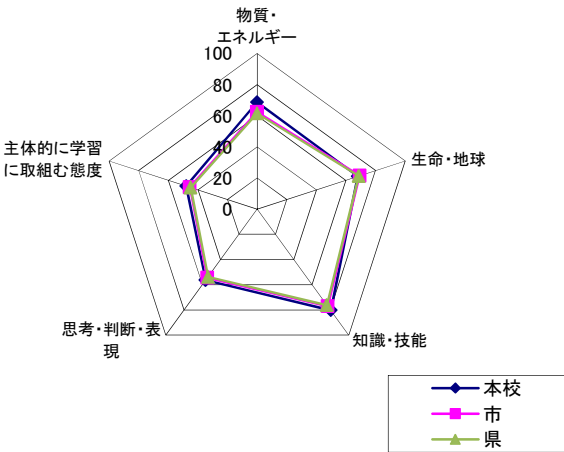
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	領域の平均正答率は72.9%で、市平均と比べて0.9ポイント下回った。 ○除法の文章問題から立式する問題は市平均と比べて11.7ポイント上回った。 ○分数で、分子が1の分数が何個で1になるかを問われた問題では、市平均より10.3ポイント高い。 ●□を使った加法の式に合った文章問題を選ぶ問題において、市平均を12.2ポイント下回った。	・計算ドリルやAIドリル、プリントを活用し、基礎基本の計算問題に繰り返し取り組みせ、定着を図る。 ・「□を使った式」については、朝の学習の時間等を使い、復習する時間を設け、定期的に解くようにする。
図形	領域の平均正答率は57.8%で、市平均と比べて5.9ポイント下回った。 ●円の半径とコンパスの使い方についての問題では、市平均を15.1ポイント下回った。 ●箱の長さからボールの半径を求める問題では、市平均を11.2ポイント下回った。	・具体物を用いたり、図を描かせたりする活動を取り入れ、知識・技能の定着を図る。 ・考え方について、図や式、言葉を使って説明する活動を行うことで、理解を深められるようにする。
測定	領域の平均正答率は73.3%で、市平均と比べて5.6ポイント下回った。 ○身近にあるものの重さを推察して、適切な単位を選ぶ問題では、市平均より9.7ポイント高い。 ●2つの時刻の間の時間を求める問題では、市平均を18ポイント下回った。	・時刻や時間を意識させるために、生活の中で児童に問いを出すなど、頻繁に使うようにする。 ・問題を数直線や図を使って表す活動を取り入れ、数量感覚をつかめるようにする。
データの活用	領域の平均正答率は91.7%で、市平均と比べて2.4ポイント上回った。 ○棒グラフの1目盛りの表す数を求める問題では、市平均より4.7ポイント高い。	・算数だけでなく、日常生活や他教科の学習でも、グラフに触れるときには目盛りの値がいくつを表しているか確認してから、グラフを読み取るよう指導していく。

宇都宮市立白沢小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	68.7	62.5	61.5
	生命・地球	68.0	69.2	68.6
観点	知識・技能	80.4	77.2	76.3
	思考・判断・表現	56.3	54.4	53.7
	主体的に学習に取り組む態度	47.9	45.5	44.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○領域の平均正答率は68.7%で、市平均より6.2ポイント上回っている。 ○電気の通りの道の回路を問う設問の正答率は83.3%で、市平均を10.9ポイント上回っている。 ○磁石の性質の設問では、正答率が58.3%で市平均を17ポイント上回っている。	・教科書や映像を見るだけでなく、体験を通したり、おもちゃ作りなどに生かし、学習したことを生活に生かすことで理解につなげていく。 ・授業だけでなくプリントやAIDリルなどを生かし、多くの問題に触れることで知識が身に付くよう継続して指導していく。
生命・地球	●領域の平均正答率は68%で市平均より1.2ポイント低い。 ○棒温度計の目盛りの読み方を問う問題の正答率は、市平均を7.6ポイント上回っている。 ○日なたと日かげの地面の温度の様子をもとに、日傘の下の方が涼しく感じる理由を推測する設問の正答率は、市平均を8.8ポイント上回っている。 ●温度の変わり方を比較する方法を考える設問では、市平均を11.2ポイント下回っている。 ●太陽とかけのうごきについての理解の正答率は市平均より8.5ポイント下回っている。	・太陽とかけの動きについては、観察や実験を通して理解できるように丁寧に指導を行う。 ・普段の授業の中で分かることや気付いたことなどをじっくりと考えたり、書いたりできる時間を確保し、思考力を高めるように継続して指導していく。 ・授業だけでなくプリントやAIDリルなどを生かし、多くの問題に触れることで知識が身に付くよう継続して指導していく。

宇都宮市立白沢小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」と回答した児童の割合は、8割(88.9%)を超えており、自分の考えを説明したり少人数で話し合ったりする活動を効果的に取り入れる授業づくりを工夫している成果が表れている。今後も話し合いの充実に努めていきたい。

○「家で学校やじゅくの決められた宿題の他に自分で考えた勉強をしている」と回答した児童の割合は、8割(80.6%)を超えており、自分で考えて学習する習慣が身に付いている児童が多い。今後も自主学習を薦め、進んで学習する態度を身に付けさせたい。

○授業のめあてを示したり、授業を振り返ったりする活動についての設問は、肯定的に回答した児童が多く、市平均を大きく上回っている。今後も学習の見通しを明確にし、分かりやすい授業展開を実施すると共に、授業の後半には、学習したことについて振り返る時間を確実に設け、自らの達成度や次時のめあてをはっきりさせるようにしたい。

○「だれに対しても思いやりの心をもって接している」と回答した児童の割合は、91.7%で、市平均を上回っている。今後もよい行いを称賛し合いながら、楽しい学校生活を送れるように支援していきたい。

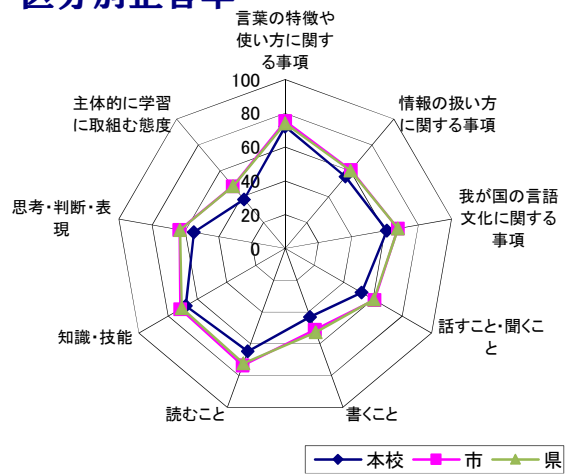
●「学校のきまりを守っている」と回答した児童の割合は、市平均を下回っている。きまりは何のためにあるのかを機会ごとに話し、きまりを守る大切さを身に付けさせたい。

●「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」と回答した児童の割合は、市平均を下回っている。仕事に責任をもって取り組むことの大切さについて日常的に指導していく。

宇都宮市立白沢小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	72.2	75.4	74.1
	情報の扱い方にに関する事項	55.6	60.5	60.2
	我が国の言語文化にに関する事項	61.1	67.7	67.8
	話すこと・聞くこと	52.2	61.0	60.7
	書くこと	43.1	51.2	52.8
	読むこと	64.8	73.7	72.4
観点	知識・技能	67.9	71.7	70.6
	思考・判断・表現	54.8	63.5	63.2
	主体的に学習に取り組む態度	37.8	48.2	48.1



★指導の工夫と改善

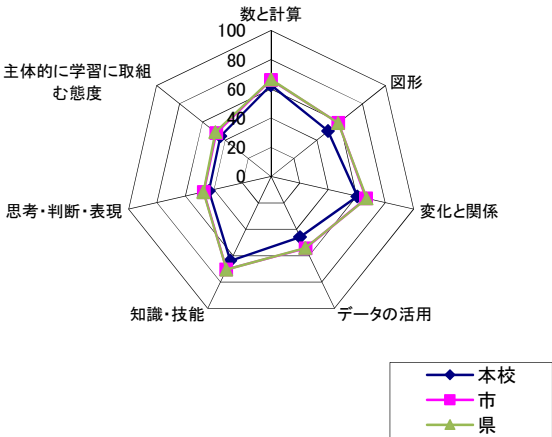
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	領域の平均正答率は、72.2%で、市の平均より3.2ポイント低い。 ○4年生の漢字を読む設問の正答率は90%を超えている。 ●2段落構成で文を書く設問の正答率は、市平均より1.6ポイント低い。	・音読をする時間を増やし、読みの重点を図る。 ・漢字ミニテストを計画的に行い、習熟を図る。 ・読書を薦め、読書をする中で言葉に触れ、言葉の意味を考えるように支援する。 ・日記や作文を書くよう薦める。
情報の扱い方にに関する事項	領域の平均正答率は、55.6%で、市の平均より4.9ポイント低い。 ●漢字辞典の使い方についての設問では、市平均より4.7ポイント低い。 ●情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見付けて要約する設問では、市平均より7.2ポイント低い。	・情報活用能力が高まるように、平行読書を行いながら読む授業を計画的に増やす。 ・国語辞典を使いながら、語彙力を豊かにしていく。
我が国の言語文化にに関する事項	領域の平均正答率は、61.1%で、市の平均より6.6ポイント低い。 ●ことわざの意味を知り、正しく使っている設問では、市平均より6.6ポイント下回っている。	・ことわざを暗記しようとするのではなく、日常生活の中で使ったり、意味の分からないことわざが出てきた場合は、辞書で調べたりするよう支援する。 ・ことわざ辞典を使う機会を多く設ける。
話すこと・聞くこと	領域の正答率は、52.2%で、県の平均よりも8.8ポイント低い。 ○話し合いの内容を聞き取る設問の正答率は80%を超えている。 ●司会の役割を果たしながら話し合い、意見の相違点に着目して、考えをまとめている設問では、市平均より大きく下回っている。	・授業の初めに、新聞記事などを教材として要約したり、見出しをつけたりし、話の中心を捉える練習をしていく。 ・ペアやグループ学習で話し合いの機会を多く設定し、考えをまとめたり比べたりする経験を積み重ねる。
書くこと	領域の平均正答率は、43.1%で、市の平均より8.1ポイント低い。 ●内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書いている設問では、市平均より大きく下回っている。 ●指定された長さで文章を書く設問は、市平均より10.9ポイント低い。	・各教科において、書く活動を多く取り入れる。 ・宿題や朝の学習の際に、テーマ作文や日記に取り組ませる。 ・社会や算数の学習で、グラフや表などの情報から読み取ったことを文章に書く活動を行う。
読むこと	領域の平均正答率は、64.8%で、市の平均より8.9ポイント低い。 ●登場人物の性格について、具体的に想像しているについての設問では、市平均より18.4ポイント低い。 ●叙述を基に、段落相互の関係を捉えている設問では、市平均より10.4ポイント低い。	・国語の読む学習では、叙述に沿って登場人物の気持ちなどを考え、根拠となる叙述を明らかにする学習を行う。 ・物語や説明文の学習や本を紹介する学習で要約をし、要約の力を伸ばすようにする。

宇都宮市立白沢小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	62.6	66.1	66.4
	図形	50.0	58.9	58.8
	変化と関係	60.6	66.6	67.0
	データの活用	45.8	54.4	54.2
観点	知識・技能	63.9	70.4	70.6
	思考・判断・表現	43.6	47.2	47.5
	主体的に学習に取り組む態度	44.4	47.8	48.8



★指導の工夫と改善

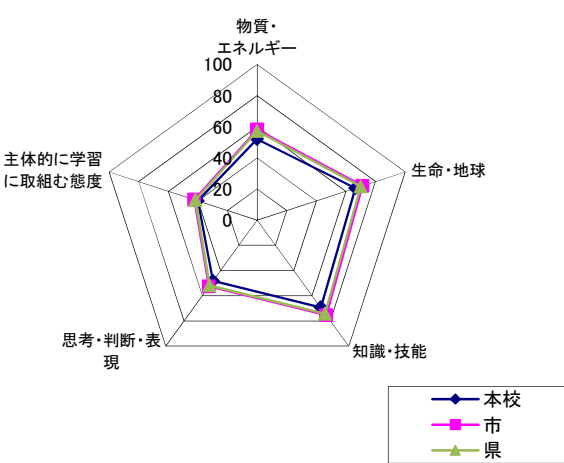
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は62.6%で市の平均を3.5ポイント下回っている。 ○分数の大きさの問題では、市の平均を13.7ポイント上回った。 ●基本的な計算問題に課題が見られた。わり算の問題では市の平均を下回った。 ●上からある桁までの概数の表し方の問題では市の平均を7.6ポイント下回った。	・基本的な計算についての習熟を図るために計算練習を繰り返して行えるよう継続的に指導する。 ・大きな数の理解については位を意識させながら指導を行っていく。
図形	平均正答率は50%で市の平均を8.9ポイント下回っている。 ●平行四辺形の作図の問題では市の平均を12.5ポイント下回っている。	・直方体の辺の位置関係については、具体物を使って視覚的に理解できるよう指導する。 ・作図については基本的な技能の定着が図れるよう繰り返し指導する。
変化と関係	平均正答率は60.6%で市の平均を6ポイント下回っている。 ○図を使って基準量を求める問題では市の平均を3ポイント上回った。 ●変わり方の問題での正答率が低かった。伴って変わる2つの数量からもう一方の値を求める問題では、市の平均を12.8ポイント下回った。	・割合については数直線やテープ図を用いた指導を大切に、習熟を図れるようにする。 ・数量やその関係を表したり調べたりする学習ではテープ図や数直線等の具体物を取り入れ問題場面を視覚化した指導を行っていく。
データの活用	平均正答率は45.8%で市の平均を8.6ポイント下回っている。 ●2つの折れ線グラフから読み取る問題では市の平均を16.9ポイント下回った。	・グラフや表、設問の意味を正しく読み取ることができるよう、算数の授業だけでなく、他教科でも意識的に指導していく。

宇都宮市立白沢小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	52.0	58.1	57.2
	生命・地球	66.3	71.1	70.0
観点	知識・技能	69.4	75.5	74.4
	思考・判断・表現	48.2	52.7	51.9
	主体的に学習に取り組む態度	40.1	42.4	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	領域の平均正答率は52%で、市平均より6.1ポイント下回っている。 ○「乾電池を2個使って、乾電池が1個のときよりも速く走る車にするための回路を作図する設問」においては、市の平均正答率を4.2ポイント上回った。 ○「温度による物の体積の変わり方を利用したものを指摘する設問」においては、市の平均正答率を8ポイント上回った。 ●「気泡シートが、閉じ込められた空気のような性質を利用しているかを説明できるかを問われる設問」においては、市の平均正答率を15.4ポイント下回った。 ●「水のあたたまり方から、水槽のヒーターを取り付ける適切な位置を推測する設問」においては、市の平均正答率を23.7ポイント下回った。	・基礎事項の定着を図るために、既習の学習内容をよく復習し、確認してから授業を進める。系統的な学習をさらに充実させていく。 ・単元の導入やまとめの際に、身の回りの生活と関連させた授業を設定し、理科への興味関心を高めさせる。 ・実験を行うときには、予想・実験・結果および考察という過程を習慣化し、なぜそうなるのか根拠が述べられるようにするなど、科学的思考を高める指導の重点化を図る。
生命・地球	領域の平均正答率は66.3%で、市平均より4.8ポイント下回っている。 ○「半月の1日の動きを理解し、どの時刻の半月か判断する設問」においては、市の平均正答率を6.7ポイント上回った。 ○「満月の1日の動きを理解しているかを問われる設問」においては、市の平均正答率とほぼ同じである。 ●「気温をはかる条件について理解しているか問われる設問」においては、県の平均正答率を18.1ポイント下回った。 ●「日なたに置いた水の量が減る理由を問われる設問」においては、市の平均正答率を9.8ポイント下回った。	・年間を通じて「観察ノート」をつけていくなど、季節の変化の様子に触れる機会を作っていくことで、自然に目を向ける機会を増やすなどの工夫をする。 ・自然の中の水についての学習では、観察したり記録したりすることによって、実感を伴った理解ができるように手助けしていく。 ・観察を行う際には、結果や考察を自分の言葉で書かせることを習慣化させ、繰り返すことで表現力を高めていく。

宇都宮市立白沢小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、自分で計画を立てて勉強している」と肯定的な回答した児童の割合は(77.7%で)、市の平均と比べて5ポイント以上高い。また、「家で学校の授業の予習をしている」「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」と肯定的な回答した児童の割合も(63.9%、77.8%)と市の平均と比べて10ポイント以上高く、児童が家での学習に対して予習や自主学習など、意欲的に取り組む様子が見られる。今後も、学校と家庭が連携して児童の頑張りを認めていく指導を推進していきたい。

○授業中での話し合いに自分から進んで参加したり、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりするのができていると回答する児童が、市の平均と同等または上回っている。また、自分の意見を発表することが得意と回答した児童の割合も高く、話し合う活動や発表する活動に対して意欲的に取り組み、考えを深めていこうとする児童が多い。今後も、授業での話し合い活動や発表の場面を多く設定し、児童の意欲を継続できるようにしていきたい。

○「自分はクラスの人の役に立っていると思う」と肯定的な回答した児童の割合は(77.8%で)、市の平均と比べて10ポイント以上高く、係や当番活動、委員会活動など自分の活動に責任をもって取り組んでいる様子が見られる。

●「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている」と肯定的な回答した児童の割合は(72.3%で)、市の平均と比べて4.8ポイント下回り、十分とは言えない状態である。今後、授業だけでなく、宿題やプリントなど様々な場面で理由を話したり、書いたりする活動を増やしていきたい。

宇都宮市立白沢小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学び合い活動の充実・言語活動の質的向上	全ての学年・クラスで、発達段階や場面に合わせて、ペア・トリプル・グループの話し合い活動を多く取り入れ、表現の仕方を指導している。	4年生の「理由を挙げながら話している」の設問では、市平均より大きく上回っている。4年生の「話し合いの中で意見の相違点をまとめる」設問では市平均ぐらいであるが、5年生は下回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語科において、4・5年生ともに「読むこと」の領域で、市平均を下回っている。	・語彙力を強化するための読書活動の充実 ・音読の時間の確保 ・朝の学習の時間などで読み取りの学習	全校を通して「奨励図書」を示し、読書記録のやり方を改善していくことで、読書内容の充実と読書量の増加を促し、語彙力の強化を図れるようにする。また、国語の時間は、毎時間音読をする時間を設け、正しく音読する力を高めるようにする。朝の読書の時間に読み聞かせをし、話の内容を要約させたりするなど要約力をつけるための取組をする。